

H29年度 あぶらげGO！（栃尾ワーキング）振り返り・評価シート

H30年3月5日作成

1 今年度の活動について

【今年度の方針】

栃尾地域の移動手段についての課題に対して、「いつまでに何を行うか」スケジュールを立てて、計画的にワーキングを行う。

【今年度の取り組み内容】

開催回数	7回	開催月	7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月
------	----	-----	-------------------------

○具体的活動内容

・栃尾の障害のある方たちが栃尾地域外に出ることについて、公的サービスで対応できている部分に焦点を絞って検討した。
・公的サービス（福祉送迎サービス）の大枠の変更は難しいが、運用方法についてはボランティアの理解が得られれば調整ができることが分かったため、栃尾の中の運用についての検討を行った。
・栃尾地域での福祉送迎サービスの現状確認を行い、栃尾社協での今後の取り組みの考えや人材確保の課題の洗い出しを行った。
・ボランティアの人材確保に視点を置いて、現状のボランティアの募集やPR活動の実態などを確認した。
・今まで社協で行ってきた人材確保の取り組みについて、意見交換と情報共有を行い、見直しをしていけるように整理を行った。

○取り組みの結果及び成果 ※成果はモニタリングを実施した場合のみ

・栃尾地域の福祉送迎サービスについて、現状と課題の確認ができた。
・課題に優先順位をつけて、希望する生活を叶えるためのアクションプラン(案)を作成した。
・来年度ワーキングで行う取り組み内容を具体的に提示することができた。

2 今年度の振り返り及び評価について

【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気付き、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

- ワーキング活動を通じて、社協内の取り組み共有にもつながった。(組織の役割・仕事の確認につながった)
- 活動の中で1つの社会資源(福祉送迎サービス)を知り(確認し)、今後やることを明確にできた。
- 実際に聞いて確認していかないとわからない…。
 - 地域状況(支援)を知ることで、必要なアプローチが設定できる。
 - 確認できた為、地域の実情に応じたアクションプランを作成できたと思う。
- 栃尾の福祉送迎サービスの伸びしろのすごさを感じた。(こんなにやっているという確認)
- 今回の検討を通じて改めてやって行かなければならないと感じた。(別建てでも検討を進める必要性)
 - 業界(タクシー会社等)との検討など。(一昔前はある程度、自由度が高かった。ボランティアでカバーできた)
- 他の地域(中之島支所)のことも活動を通じて知れた。→普段は知る機会があまりない。(他の会議等が何をしているのか? 全体的につかみにくい部分もある)
- 栃尾(地域)とした1つの課題をどう展開していくかを改めて考えさせられた。
 - 長岡全体の課題としてどうするか?
 - メンバー構成がどうであったか?
- Ex)保健師などの地域の中核の人を入れておくのも方法であったかも。
 - 誰を呼んだらいいかもわからず。KPが誰であるかも確認しないと(地域に寄る色の違いを理解すること)
- 協議会での初ワーキングだった。
 - ワーキングとして作っている感があった。
 - ワーキングに参加した人以外にも地域のことを広げていく、伝えていく必要性がある。

【協議会の機能について】

今年度の活動の中で、どのような協議会の機能があったかを確認する。※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	機能の有無	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	①有・無	<ul style="list-style-type: none"> ○自組織(社協等)の取り組み共有。 ○1つの社会資源を知れたこと。 ○栃尾(地域のこと)を知れた。 →長く地域で勤めていても改めて知れた、知る機会になった。 ※上記「知った」ということが情報機能。 →「知った」ことを更に広げていくことも情報機能。 ○今回の活動を通じて、他の個別ケースにも情報提供ができる。(波及効果)
調整機能	①有・無	<ul style="list-style-type: none"> ○地域状況をもとにアクションプランまで作成を行った。→今後の見通しが持てる。 ○アクションプランの役割分担→今後の課題(他の部分)も見えてきた。 ○取り組むべきことの優先順位付や整理が行っていた。 ○1つの機関だと難しいことも、協力することでやっつけていける。(権利擁護機能に重なる)
開発機能	①有・無	<ul style="list-style-type: none"> ○活動全てが開発機能 ○「福祉送迎サービス」の運用変更。 ○メンバーの意識の開発(教育機能に重なる) ○今後の開発に向けた「入口」に立てた。→これからにつながる開発。 ○自分の所為だけでない方法もある事。 ○地域の実情を明確にした。
教育機能	①有・無	<ul style="list-style-type: none"> ○一緒に活動を行うことで様々なことを知ったこと。 ○ワーキングだけで勉強会(研修会)だった。 ○長岡市社協栃尾支所の活動を知れたこと。 ○日々の活動の点検になった。(いつも流していたこともあった) →見なかった資料を見たり再確認をする機会。 ○他の職員に対しても広めて、振り返りにつながったこと。 ○ワーキングのやり方を確認できた。 ○メンバーの意識の開発(開発機能に重なる)
権利擁護機能	①有・無	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な利用に向けて検討をしたこと。 ○必要な人に必要なものを届けられるような検討実施。 ○本人やニーズ中心の活動。 ○1つの機関だと難しいことも、協力することでやっつけていける。(調整機能に重なる) ※活動者の理解啓発に向けた配慮が必要。
評価機能	①有・無	<ul style="list-style-type: none"> ○「福祉送迎サービス～社会資源」の確認が評価につながる。 ○1つの組織の振り返りにつながった。(これまでの努力の確認) ○ワーキングの活動自体が地域、社会資源の評価機能。

3 来年度の取り組みについて

来年度の継続	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 終了
継続・終了の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みはワーキングとして継続(あぶらげGOGO!!)。 ・福祉送迎サービスの普及啓発を行い、運転ボランティアを増やす為のアクションプランを作成して、実際の活動につなげていく。

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

今年度の取り組みに対する モニタリングの実施	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	モニタリング実施時期	年	月
---------------------------	---	------------	---	---

※ワーキングのみ記載

【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】

※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

・さまざまな職種から参加してもらい話し合いを持つ中で、ワーキングに参加した人以外にも地域のことを伝えていくことができる。

【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】

※来年度継続の場合

・アクションプランに沿った活動と評価を継続的に行っていく。